

今年度も「内科はじめての一步」を開催します！

卒後臨床研修センターでは、内科系教員が世話人となり、主に毎月第4月曜日の夕方に勉強会「内科はじめての一步」を開催しています。内科各診療科のエキスパートの先生方を講師にお迎えし、診療に役立つ知識から実践的な手技まで、バラエティ豊かな内容で講義やハンズオンセミナーを行っています。開催形式は以下のとおりです。

- 開催時間：17時30分～18時30分(1時間)
- 座学：30分×2コマ
- ハンズオン(腹部エコーなど)：60分×1コマ

テーマによって、飛び入り参加可能な回もあれば、事前予約制の回もあります。内科を志している研修医の先生方はもちろん、内科に興味のある先生方、現在内科をローテーション中の先生方のご参加をお待ちしております。「内科はじめての一步」を通じて、内科診療の楽しさと奥深さに触れていただければ幸いです。

「はじめての一步」2026年度開催スケジュール

日付	担当診療科と「テーマ」 ※現在、調整中です！
令和8年 7 月 27 日	1. 血液内科 『貧血の見かた』
令和8年 8 月 24 日	2. 内代糖内科 『糖尿病の薬剤選択』
令和8年 9 月 28 日	3. 腎臓内科 『透析患者のトリセツ』
令和8年 10 月 26 日	4. 膠原病内科 『発熱』
令和8年 11 月 30 日	5. 呼吸器内科 『抗酸菌』
令和8年 12 月 21 日	6. 脳神経内科 『神経診察』
	7. 循環器内科 『心エコーハンズオン』
	8. 消化器内科 『腹部エコーハンズオン』
	9. 感染症内科 『感染症症例シミュレーション』
	10. and more...

宮崎大学医学部附属病院臨床研修プログラム説明会&研修医との何でも相談・懇親会を開催しました！

令和8年6月22日(月)、卒後臨床研修センターの企画として「宮崎大学医学部附属病院 臨床研修プログラム説明会&研修医との何でも相談・懇親会」を開催しました。本企画は、本学医学科生に卒後臨床研修プログラムへの理解を深めてもらうことを目的に立ち上げ、今年度も開催しました。当日は、卒後臨床研修センター・セミナー室にて17時より開始。事前申込の学生2名に加え、有志の研修医3名、専攻医1名、センター教員2名が参加しました。

まず冒頭では、宮内副センター長より、宮崎大学の臨床研修プログラムの概要について10分ほどの説明があり、参加者全体で共通理解を深めました。その後は、自由に懇談・相談ができるグループ形式の交流を実施。実際に経験している若手医師の「生の声」の方が学生の心に届きやすいとの考えのもと、研修医が主体となって語る場を重視しました。軽食や飲み物を囲みながらの約30分間、研修医からは率直な体験談が語られ、学生からは将来の進路や研修生活に関する切実な質問が数多く寄せられました。

規模の大小にかかわらず、今後も学生と若手医師が気軽に交流できる場を設け、皆様とともに有意義な企画を継続してまいります。



令和8年度宮崎県専門研修プログラム合同説明会及び交流会が開催されました。

令和8年6月27日(土)に宮崎観光ホテルにて、宮崎県専門研修プログラム合同説明会及び交流会が開催されました。本説明会及び交流会は、研修病院・県行政・県医師会で構成する宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会が主催するイベントです。

まず、宮崎県医師会の大塚常任理事から開会挨拶があり、その後宮崎大学医学部医療人育成推進センターの小松教授から専門研修プログラムの概要説明、各専門研修プログラムの概要説明と進んでいきました。休憩をはさんで、各ブースでの個別相談の時間となり、ブースに待ち構える先生方が前半のプレゼンテーションで伝え切れなかった内容を伝えるべく、資料、身振り手振り、そして笑顔を交えて情報提供を行っていました。

本企画が未来の専門医育成につながっていくことを祈念いたします。



週末の救命救急センター研修のご紹介!

2024年度より運用を開始した「週末救急当直（週末の救命救急センター研修）」には、これまで多くの研修医が自ら希望して参加し、貴重な救急診療の経験を積んできました。なかでも昨年度から今年度にかけて、現2年次研修医の増田詩水先生は年間16回もの週末救急当直に参加し、同期研修医の中で最多の研修経験を重ねられました。

「なぜ、そこまで参加したのか?」、「実際に参加してみて、どのような学びや成長があったのか?」

今回は、その率直な思いや印象を伺うため、副センター長の宮内が増田先生にインタビューを行いました。週末救急当直の魅力や現場で得られた経験が、これから研修を迎える皆さんにも伝われば幸いです。



Interview

2年次研修医 増田 詩水 先生



Q1. 週末救急当直に参加しようと思ったきっかけは何でしたか。

大学病院での研修では、採血や各種手技を実践する機会がそれほど多くありません。そのため、より多くの経験を積みみたいと思い、週末救急当直に参加しようと考えました。

Q2. 初めて参加した際の印象はいかがでしたか。参加前のイメージと実際に経験してみた印象に違いはありましたか。

実は初めて参加した日は、一度も呼ばれることがありませんでした（笑）。振り返ってみると、3回に1回くらいは比較的落ち着いた当直であったように思います。常に忙しいというわけではなく、その日の状況によってかなり違うというのが実際の印象でした。

Q3. 週末救急当直で最も印象に残っている症例や出来事があれば教えてください。

朝方に搬送された重症の交通外傷症例が印象に残っています。大量血胸を伴う非常に厳しい状態で、私は鼠径部からの採血や点滴・輸血オーダーなどを担当しました。

また、重症患者さんが搬送されてきたときに、上級医や指導医の先生方の「スイッチが入る瞬間」を間近で見られるのも印象的でした。普段とは違う集中力やチームワークが発揮される場面を見るのは、個人的に好きな瞬間でもあります。

Q4. 当直を重ねる中で、ご自身の考え方や診療姿勢にどのような変化がありましたか。

救急診療を経験することで、「もっと幅広い症例を経験したい」という気持ちが強くなりました。様々な患者さんに対応する中で、自分自身の視野も広がったように感じています。

Q5. 病歴聴取、身体診察、初期対応、プレゼンテーションなど、特に身についたと感じるスキルは何でしょうか。

身体診察の力はかなり鍛えられたと思います。また、翌朝のカンファレンスでは前夜の症例についてプレゼンテーションを行うため、発表する力も身についたと感じています。

朝のカンファレンスでは基本的に研修医が主に発言し、指導医の先生方は必要に応じて補足を加えて下さいます。そのため、自分で症例を整理し、人に伝える経験を数多く積むことができました。

Q6. 一方で、難しかったことや悩んだ経験があれば教えてください。また、それをどのように乗り越えましたか。

日中はスタッフの人数が多いため、自分が主担当として動く機会が少ないこともあります。その点では、むしろ夜間のほうが主体的に患者さんへ対応できるため、学びが多いと感じることもありました。

また、上級医の先生方が気軽に声をかけてくださったり、当直の休憩中に軽食を回して話をしたりする機会もありました。そうした雰囲気のおかげで、安心して当直業務に取り組むことができたと思います。

Q7. 指導医や上級医との関わりの中で印象に残っていることはありますか。

本当に様々なタイプの先生がいらっしゃるの、それぞれの先生方に合わせながら学ばせていただきました。

中には重症患者さんの対応を多く経験されている先生もおられ、そうした先生と一緒に当直に入ると非常に勉強になりました。重症例への対応を間近で見ることができたのは貴重な経験だったと思います。

Q8. 現在研修中の他病院（仮称：A病院）の救急科と比較して、当院の週末救急当直にはどのような特徴があると感じますか。

A病院では、研修医が主体となって診療を進める場面が比較的多い印象があります。一方で、大学病院には大学病院ならではの重症例や専門性の高い症例があり、学べる内容も異なります。

A病院では、「まずは自分で考えて対応してみる」という経験を積みやすく、大学病院では重症患者さんへの対応やチーム医療を学ぶ機会が多いと感じています。どちらにもそれぞれの良さがあり、一概にどちらが良いというものではないと思います。

Q9. 今振り返ってみて、週末救急当直を経験して良かったと感じることは何でしょうか。また、その経験は現在の救急科研修や日常診療にどのように活かされていますか。

大学病院での通常研修では、採血を含めた手技を経験する機会が限られることがあります。そのため、救急当直で実際に経験を積めたことは非常に大きかったと思います。

こうした経験は、現在の救急科研修でも日常診療でも確実に役立っていると感じています。

Q10. これから週末救急当直への参加を迷っている後輩研修医や学生へ、ぜひメッセージをお願いします。

もし経験や手技の習得を求めているのであれば、週末救急当直は非常におすすめです。実際の現場でしか学べないことがたくさんありますし、自分自身の成長を実感できる貴重な機会になると思います。ぜひ積極的に参加してみてください。



中村 仁彦 先生



黒木 琢也 先生

救命救急センター 中村 仁彦 先生・黒木 琢也 先生

現在の週末救急当直システムでは、忙しい日もあれば比較的落ち着いた日もありますが、研修医の先生方はそれぞれの状況に応じて非常によく対応してくれています。重症患者さんが搬送された際には積極的に診療に取り組み、また重症患者さんの搬送がない日であっても、病棟患者さんへの対応を丁寧に行ってくれています。

普段は控えめな印象の研修医の先生方が当直業務に積極的に取り組む姿も見られます。本院で救急科ローテーションを経験された方であれば比較的入りやすいと思いますし、本院での経験がなくても、他施設で救急外来を経験された方であれば十分に活躍できる環境です。ぜひ遠慮せずに参加していただき、多くの先生方にこの当直を経験していただければ嬉しく思います。

増田詩水先生については、比較的難しい症例を担当する機会が多いのですが、落ち着いて着実に対応してくれています。今後も一緒にお仕事ができたらいいなと思っています。

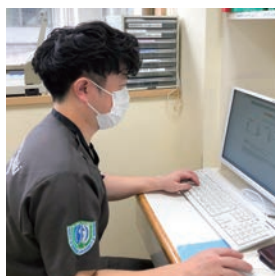
インタビューを通して印象的だったのは、増田先生の飾らない言葉と真っ直ぐな姿勢でした。その表情からは、週末救急当直への大きな期待と、日頃から熱心に指導して下さる救命救急センターの指導医・上級医の先生方への深い信頼が感じられました。

実は増田先生、「救急医を目指しているわけではないんです」と笑顔で話してくださいました。それでも、自ら数多くの当直に参加し、一つひとつの経験を大切に積み重ねてこられた姿は、まさに本研修の意義を体現しているように思います。今後、どのような診療科へ進まれるのか、とても楽しみです。

この週末救急当直は、本院救命救急センターの全面的なご協力のもと運営されています。日頃より熱意をもってご指導くださっている指導医・上級医の先生方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

卒後臨床研修センターとしても、本システムが研修医にとってより実りある研修となるよう、今後も運営方法の改善を重ねながら、さらに充実した研修環境づくりに努めてまいります。そして、この取り組みを通して、一人でも多くの研修医が救急診療の魅力に触れ、診療科を問わず将来の臨床に生かせる経験を積んでいただけることを願っています。

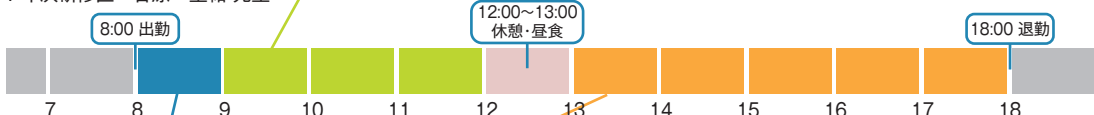
宮崎大学医学部附属病院の臨床研修医の先生達は、日々、それぞれのローテート研修先で研鑽を積んでいます。できないこと、知らないこともあるけれど、勉強して、経験して、努力して、少しずつ大きく成長してくれていることでしょう。そんな研修医の先生達が奮闘しながら過ごす毎日をちょっとだけ覗いてみませんか？ (by 卒後臨床研修センター教員)



1年次研修医 合原 圭祐 先生

内視鏡室にて上部消化管内視鏡検査。研修医は担当の検査と興味のある症例の検査を見学します。見学中には指導医・上級医から質問や説明があり、疾患に関する知識を深めることができるだけでなく、検査をする際のポイントも学ぶことができます。研修開始直後は見学が中心ですが、徐々に処置の補助を行ったり、実際に内視鏡や生検鉗子を操作したりする機会もいただきました。

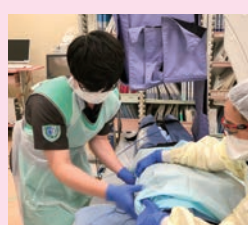
曜日によっては各グループのカンファレンスに参加します。肝臓カンファレンスでは、担当症例のプレゼンテーションを行います。腹部超音波検査や肝生検にも立ち会い、超音波プローブの当て方や画像の描出方法について指導していただけます。比較的内視鏡検査が少ない日には、内視鏡シミュレータを用いたトレーニングを行うことができます。実際に内視鏡を操作することで、指導医の先生方が処置中にどのような操作を行っているのかを理解しやすくなりました。



担当患者さんのカルテを確認し、夜間の出来事や検査結果などを把握します。病室で問診・診察を行い、必要な処方や検査のオーダーを行います。症例に応じて化学療法カンファレンスにも参加します。

午後からは下部消化管内視鏡検査やERCP。患者さんの体位保持の補助や内視鏡処置具の準備をしたりします。検査・処置は複数の部屋で同時進行しているので、たくさんの症例を目にすることができます。

本日は午後から、胃食道静脈瘤破裂による吐血で搬送された患者のEVL（内視鏡的静脈瘤結紮術）に立ち会いました。処置中は患者が動かないよう体位保持を行ったり、モニタリング機器の装着を補助したりしました。緊急症例では、通常以上の緊張感の中で行われる処置を経験することができ、貴重な学びの機会となりました。



退勤後、一緒に消化器内科をローテートしている3人で晩ご飯を食べました。また明日からも頑張ります！

担当症例が新規入院した際には、問診や診察を行い、入院サマリーを作成します。また、入院中は日々の診療経過をカルテに記載し、退院時には退院サマリーを作成します。

研修医の声

今回は、宮崎県外の医学部を卒業された1年次研修医の先生方にコメントを頂きました！



ト部 美律 先生

私は宮崎出身で、将来は地元で貢献できる医師になりたいという思いから、宮崎大学医学部附属病院を研修先を選びました。慣れ親しんだ土地で研修できる安心感があったことも大きな理由の一つです。

実際に研修を始めてみると、上級医の先生方が熱心に指導していただき、診療や手技について丁寧に学ぶことができています。現在は消化器外科を研修していますが、手術だけでなく周術期管理や多職種との連携など、医師として必要な知識や考え方を日々学んでいます。

また、診療科の垣根を越えて相談しやすい雰囲気があり、研修医向けの勉強会やレクチャーも充実しています。同期にも恵まれ、互いに支え合いながら楽しく研修生活を送っています。地元で働きながら成長したい方にとって、宮崎大学医学部附属病院は非常に魅力的な研修環境だと思います。

少しでも興味のある方は、ぜひ一度宮崎大学医学部附属病院に足を運び、実際の雰囲気を感じてみてください。



日高 玲奈 先生

研修が始まって3か月が経ち、少しずつ業務にも慣れ、日々多くのことを学びながら充実した毎日を送っています。私が宮崎大学医学部附属病院を選んだ理由は、プログラムの自由度が高く、2年目には県内各地の協力型病院や施設で研修できることに加え、多くの同期と研修できることに魅力を感じたからです。また、卒後臨床研修を終えたばかりの専攻医の先生方が身近におられ、研修修了後の将来像を具体的にイメージすることも決め手の一つでした。実際に研修が始まると、覚えることも多く大変ですが、指導医や専攻医の先生方に気軽に相談できる環境が整っており、安心して研修に取り組んでいます。これからローテートする診療科や市中病院での研修も楽しみです。同期とも情報交換や相談をしながら研修でき、とても心強く感じています。幅広い環境で研修したい方には、宮崎大学医学部附属病院での研修は良い選択肢だと思います。これからマッチングを迎える皆さんの研修先選びの参考になれば幸いです。



財津 祐亮 先生

はじめまして、1年次研修医の財津と申します。私は県外の大学出身ですが、地元である宮崎の医療に関わりたいという思いから、宮崎大学医学部附属病院を研修先を選びました。

研修が始まって約3ヶ月が経ち、腎臓内科、脳神経内科、血液内科で研修を行いました。日々の診療では知識不足を痛感する場面も多いですが、カルテの書き方や患者さんのプレゼンテーションについて上級医の先生方に丁寧に指導していただき、安心して学ぶことができています。また、ルンパールや採血などの手技を経験する機会もあり、実践を通して学ぶことができています。診療科ごとに方針や雰囲気が異なる点も興味深く、幅広い視点を得られることが大学病院で研修する魅力だと感じています。

県外大学出身のため、最初は病院内の設備の場所が分からず戸惑うこともありましたが、その都度周囲の先生方や同期に相談しながら少しずつ慣れてきました。研修医の人数が多く、困ったときに相談しやすい環境があることも大きな支えです。

まだ進路が決まりきっていない方や、上級医に相談しながらじっくり学びたい方にとって、宮崎大学医学部附属病院はとても良い研修先だと思います。ぜひ一度、見学に来て雰囲気を感じてみてください。



大山 琳 先生

私が卒後臨床研修の場に宮崎大学医学部附属病院を選んだのは、生まれ育った故郷の医療に深く貢献したいという強い思いに加え、大学病院ならではの若手を育てる教育体制に魅力を感じたからです。

実際の研修生活は非常に充実しています。指導医の先生方は熱心な方ばかりで、疑問があればいつでも丁寧に指導していただけます。また、当院には「やる気があれば何でも挑戦させてくれる」という、若手の主体性を尊重する素晴らしい文化があります。

時に壁にぶつかることもありますが、頼もしい先生方に支えられながら、安心して現場での経験を積み重ねることができ、地元宮崎の医療を支える一人の医師として、一歩ずつ着実に成長している実感を日々得られる環境です。

All Miyazaki体制で臨床研修イベントを実施しました!!

イベント1

宮崎大学医学部生対象マッチング登録説明会& 宮崎県内8基幹型臨床研修病院合同説明会が開催されました!

令和8年6月12日(金)に宮崎大学医学部にて、宮崎大学医学部及び宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会の合同主催による「マッチング登録説明会&宮崎県内8基幹型臨床研修病院合同説明会」が開催され、本学医学部6年生99名と、1年生から5年生までの地域枠学生23名が参加しました。

第一部で宮崎大学医学部医療人育成推進センターの小松教授からマッチング日程と登録方法の説明が行われ、第二部で県内8基幹型臨床研修病院(県立宮崎、県立日南、県立延岡、古賀総合、宮崎生協、藤元総合、宮崎市郡医師会、宮崎大学)から各臨床研修プログラムの説明が行われました。各病院の指導医の先生や研修医が、準備したスライドや映像を用いて、参加した学生に熱心に説明されていました。

説明会終了後には、各研修病院個別説明の時間が設けられ、参加した学生が興味のある研修病院のブースに赴き、気になる質問や相談を行っていました。



イベント2

レジナビフェア福岡&東京に出展しました!

令和8年5月24日(日)に福岡、令和8年6月21日(日)に東京にてレジナビフェアが開催されました。All Miyazakiブースも出展し、宮崎大学も参加してきました!

福岡会場では卒後臨床研修センター長の小松教授と研修医の先生2名、東京会場では研修医の先生2名が参加し、それぞれの会場で学生からの質問に答えたり、本院プログラムについての説明を行いました。

福岡では46名、東京では15名の学生さんが本院ブースを訪れて下さり、All Miyazakiブース全体も大変賑わいました。宮崎に縁もゆかりもない学生さんの来訪も多く、本院プログラムについて紹介する非常に良い機会となりました。

今回宮崎県ブースを訪れた学生さんには、ぜひとも病院見学をご検討いただけると幸いです。

福岡会場の様子



荒殿先生(写真左手前)、甲斐先生(写真左奥)



当日の集合写真

東京会場の様子



宮田先生(写真左奥)、和田先生(写真右奥)

■ブース説明を担当した研修医からのコメント

1年次研修医 甲斐 弘将 先生

今回、私は5月24日(日)に開催されたレジナビフェア福岡に参加しました。ブースには多くの学生が説明を聞きに来てくださり、とても緊張しましたが、貴重な経験となりました。また、他県の学生も宮崎県のブースに足を運んでくださり、宮崎県のブース全体が一丸となって盛り上がる事ができました!大変ではありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

2年次研修医 荒殿 聖太 先生

今回、レジナビ福岡に参加してきました。多くの学生さんたちにお越し頂き、病院の特徴や研修内容、実際の働き方などについて自身の経験も交えながら説明することで、魅力を伝えることができたと思います。また、説明を行う中で自分自身も初期研修を振り返る良い機会となり、改めて当院で学べる環境の良さや指導体制の充実を実感しました。残りの研修期間もこの素晴らしい研修環境に感謝しながら励んでいきたいと思います。

2年次研修医 宮田 梨緒 先生

6月21日(日)に開催されたレジナビ東京に参加してきました。首都圏の学生さんが多くアウェイな環境ではありましたが、宮崎にゆかりのある方や宮崎の暮らしに魅力を感じてくれた方、お菓子に釣られて入って来てくれた方など多くの学生さんに来訪いただき、担当職員一同、宮崎県、宮崎大学の研修の魅力を精一杯お伝えしました。これを機に1人でも多くの方が病院見学に来て宮崎の魅力を実感してくださることを切に願います。

▲センター教員紹介



循環器内科 山本 紗子 先生

2026年4月より卒後臨床研修センターに配属となりました山本紗子です。2012年に宮崎大学を卒業後、本院の卒後臨床研修センターで初期2年間の研修を行いました。研修修了後は循環器内科に入局し、本院や関連病院での診療に携わってきました。研修医の先生方にとって充実した2年間となるよう、少しでもお力になればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



心臓血管外科 谷口 智明 先生

2026年4月から再びスタッフとして研修医の皆様をサポートさせていただきます。手術と音楽が大好きです。私が当院の研修医だった頃、バイク事故で3ヶ月ほど入院しましたが、卒後センタースタッフの方々のお陰で安心して研修を修了でき、大きな恩を感じています。その恩返し気持ちも込めて、皆さんが安心して研修を継続できるよう頑張りますので宜しく御願い致します。

「なんでも掲示板」 原稿募集!

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、研修あるある話など、研修に係わる話ならなんでも原稿募集中です!

連絡先 宮崎大学医学部 医療人育成課 卒後臨床研修係
内線2385/2386

T889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

